

第2回 関東地方河川堤防復旧技術等検討フォローアップ委員会及び統合物理探査検討会
合同委員会 議事要旨 (委員からの主な意見)

日時：平成24年7月5日：15：00～17：00

場所：九段第3合同庁舎 11階共用会議所4

【意見及び議事概要】

- ・ S波速度とN値の関係について、既往資料よりもバラツキが大きいと感じる
- ・ S波速度とN値の関係について、粒径、年代の違いにより異なるのではないか
- ・ 霞ヶ浦での閾値の検証として、「安全性が低いと推定された区間」や「被災区間ですでに復旧対策が完了した区間」を実施し、沈下量が小さい区間や被災が生じていない区間において、ゆるみの可能性を推定するのではないか
→ 閾値の検証結果（安全性が高いと推定された区間）を（沈下量が小さく、被災が生じていない区間を確認）と変更する。
このため、合同委員会 資料-2 P17とP18を入れ替える。（別紙-1）
- ・ ゆるみの可能性があるとして推定された区域では、堤防の安全性を評価する際に、N値と透水係数から判定することで良いのか
- ・ ゆるみが推定された堤防区間はボーリング等の調査をした結果、特段の変化は認められなかったことから、はん濫注意水位を元に戻すことは良い。
但し、実績水位の確認がなされるまで、河川巡視を優先的に行う等による点検の工夫で確度を向上させることが必要ではないか。
- ・ 今後の地震時に被災する箇所をスクリーニングする上で、今までのデータを活用し、砂以外も判断できることが望ましい。
- ・ 前年の検討会で検討した被災パターンの3つの区分毎に、統合物理探査による危険度評価結果から、相関を見てはどうか